



庭と建築の煎茶文化

近代数寄空間をよみとく

尼崎博正・麓和善・矢ヶ崎善太郎 編著

▶ A5判・352頁／定価：本体 5,500円（税別）
ISBN978-4-7842-1944-5

2019年1月刊行 好評 2刷

煎茶の流行、茶の湯(抹茶)の復興——、近代茶道界はまさに煎茶・抹茶がせめぎ合い、そして融合する時代であった。

それゆえ、煎茶に興じた数寄者たちの好みや背後にある煎茶文化をふまえないと近代数寄空間（庭・建築）は理解できない。大正以降、茶の湯の流行とともに煎茶文化そのものは陰に隠れても、庭・建築に取り入れられた煎茶的な趣向は、茶の湯の世界と融合し、新たな近代数寄空間を形成していったからである。

これまで茶の湯の視座からのみ語られてきた近代数寄空間を煎茶的要素からよみとき、新たな解釈を提示する。

◇ 目次 ◇

I. 近代数寄空間と煎茶趣味

- 近代庭園の空間的特質と煎茶（尼崎博正）
- 煎茶の場と環境（矢ヶ崎善太郎）
- 煎茶席の意匠的特質（麓和善）
- コラム1 植治と箒庵と有朋（尼崎博正）
- コラム2 小川可進—初代後楽（六世 小川後楽）

II. 煎茶流行の時代

- 煎茶文化（六世 小川後楽）
- 補論 煎茶の庭—その希求する源的世界—（六世 小川後楽）
- 文人煎茶の庭（霊鷲照石）
- 煎茶席と近代和風住宅（麓和善）
- 近代数寄者の煎茶と文人趣味（矢ヶ崎善太郎）
- 明治のニッポンにて、外国人がであった「cha no yu」と庭園（武藤夕佳里）
- コラム3 山紫水明処の維持（頼純子）
- コラム4 甦る煎茶席—草野家・中津万象園（七世 小川後楽）

III. 煎茶趣味の広がり

- 煎茶席の歴史的・地域的特質（麓和善）
- 各地の煎茶文化—その伝播の要因及び経路（六世 小川後楽）
- 煎茶文化の伝播と普及（矢ヶ崎善太郎）
- コラム5 涉成園の四方の門—西門から入園した頼山陽（加藤友規）
- 特論「煎茶」の思想的・政治的景観（六世 小川後楽）
- 終章 近代数寄空間の特質—煎茶と抹茶の融合（尼崎博正）
- 付録 煎茶的要素を含む数寄空間一覧／索引（人名・庭園・建築名）

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-533-6860 fax. 075-531-0009
https://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	庭と建築の煎茶文化	定価5,500円(税別)	ISBN978-4-7842-1944-5	
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい） <input type="checkbox"/> 代引（書籍代+送料600円を現品と引き替えにお支払い）				

書店番線印

茶と室内デザイン

小泉和子編

日本的とされる日本住宅の室内デザインはほとんどが茶によって育まれた。茶が日本住宅の室内意匠に与えた影響について、それぞれの専門の立場からの論考を収録し、豊富なカラー図版とともに、茶道と室内デザインの関係性を考える。

▶B5判／224頁／本体3,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1808-0

※近代数寄者のネットワーク 【残部僅少】
茶の湯を愛した実業家たち

藤藤康彦著

高橋義雄、根津嘉一郎、小林一三…近代実業家と茶の湯に関わる単なるエピソードの紹介ではなく、従来顧みられなかった茶会記録である『茶会記』のデータ分析を通して政界・官界・実業界を横断するネットワークを描出する。

▶A5判／308頁／本体4,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1603-1

講座 日本茶の湯全史 [全3巻]

茶の湯文化学会編

茶の湯文化学会創立20周年記念出版。「中世」「近世」「近代」の3巻にかけて、時代を輪廻りにしながら見る本編と、茶の湯の重要な要素を通史として見渡す特論から成る。各巻には時代別の概説と研究の手引き、参考文献を掲げ、研究課題を提示する。最新の研究成果をふまえて茶の湯を通覧する、まったく新しい概説書。

▶46判・平均330頁／各本体2,500円(税別)

元伯宗旦の研究

中村静子著

「利休の孫」として知られる元伯宗旦——その生涯は病気がちで不明な部分が多く、残された史料から全体的な姿を解明することは難しい。徳川幕府体制が確立し、大名茶全盛を迎えた時代に、誰に仕えることなく自身の茶の湯を追求し続けた宗旦の姿を、多数の史料を丁寧に読み解くことで複眼的に究明する。

▶A5判／430頁／本体7,800円(税別)

ISBN978-4-7842-1760-1

茶の湯 恩籟抄

戸田勝久著

裏千家今日庵歴代一人ひとりについての論考「裏千家 今日庵歴代」(13篇)、茶の湯ゆかりの人物をめぐって茶の湯の精髓が語られる「茶の湯掃苔抄」(12篇)、時空を自在に行き来する「江戸東京茶の湯散歩」(深川編8篇・日本橋編16篇)の3部構成。

▶A5判／652頁／本体5,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1751-9

※建築史論聚

中村昌生先生喜寿記念刊行会編

日本建築の歴史的伝統を深く把握してこそ、新しい時代の建築を創造できるとした建築史学の泰斗・中村昌生氏(京都工芸繊維大学名誉教授)の喜寿を記念し、薫陶を受け研鑽を重ねてきた研究者たちがオリジナル論文を持ち寄る。寺社建築・茶室・建築生産史・都市史・近代建築についての15篇。

▶A5判／590頁／本体9,000円(税別)

ISBN4-7842-1202-7

【品切】

野村得庵の文化遺産

野村美術館学芸部編

野村グループの創始者・得庵野村徳七(明治11年～昭和20年)の文化遺産の精華は、京都の別邸碧雲荘(重要文化財)と、その隣で得庵のコレクション3000点を所蔵・展示する野村美術館に伝えられている。本書は、野村美術館設立30周年記念事業として、野村得庵の文化活動に焦点を当て、各分野の第一人者が論文集の形でまとめる伝記。

▶A5判／506頁／本体3,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1701-4

近代の「美術」と茶の湯 言葉と人とモノ

依田徹著

明治維新で価値を落とした茶道具は、どのようにして美術作品として再評価されるようになったのか?千利休と岡倉天心に注目し、近代美術史の視点から、明治以降の茶道具の評価を捉え直す。美術作品と茶道具の境界線を問う、革新の一書。平成25年度茶道文化学術奨励賞受賞。

▶A5判／332頁／本体6,400円(税別)

ISBN978-4-7842-1693-2

※近代茶道の歴史社会学

田中秀隆著

「伝統文化とは近代に自己変革に成功した文化である」との近代茶道史テーマにもとづき、近代国家の文化的アイデンティティの生成構造面から、茶道が日本の「伝統文化」として認知されるようになった過程を考察する。

▶A5判／454頁／本体6,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1377-1

茶の湯と音楽

岡本文音著

室町時代後期から江戸時代初期の千利休による大成という、茶の湯が発展・拡大へと向かう時期の文献をひもときつつ、「音楽」の世界をとおしてみえる茶の湯の美意識を、大きく能楽(第1章)、「峯すり」(第2章)、茶の湯の釜の煮え音「五音ノ湯アヒ」(第3章)、茶の湯空間における音(第4章)という4つのトピックから明らかにする。

▶A5判／376頁／本体7,800円(税別)

ISBN978-4-7842-1606-2

茶譜 [全2冊]

谷尻・矢ヶ崎善太郎校訂

茶湯古典叢書5

茶譜(全18冊)は、利休・織部・遠州・宗和・宗旦のそれぞれの茶匠とその時代の茶の湯を、確かな情報に基づいて茶の湯の分野ごとに再編集したものである。西尾市岩瀬文庫蔵本を底本とし、現存する諸本と校合して全編活字化。挿図についても別冊の写真版で全て収録。

▶A5判・本文篇756頁、図版篇168頁／本体20,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1528-7

日本庭園像の形成

片平幸著

「日本庭園」は西洋でどのように理解され、解釈されたのか、そして日本はそれに対してどのように反応したのか。19世紀末から20世紀初頭の欧米人の日本庭園論、それへの日本人の反応、という両者の「往還」を丁寧にたどり、1930年代に至って日本庭園の「独自性」が規定されていく過程を追う。

▶A5判／240頁／本体4,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1718-2

※大工頭中井家建築指図集 中井家所蔵本

谷直樹編著

江戸幕府の京都大工頭を代々務めてきた中井家に伝来する史料には、中井家の職務に対応して、城郭、武家屋敷、内裏、公家屋敷、寺院、神社、数寄屋、書院の指図があり、江戸時代の建築に関する詳細な情報を得ることができる。図版517点を大判で収録し、解説を付す。

▶B4判／360頁／本体18,000円(税別)

ISBN4-7842-1148-9

『作庭記』と日本の庭園

白幡洋三郎編

日本最古の作庭理論書として知られる『作庭記』には、中世の人々の作庭技術のみならずその背後に宿る思想・美意識が反映している。そうした着想から企画され、さまざまな専門分野からの意見を出し合い、議論し、「日本庭園を通した古代・中世的自然観」の発見を試みる。

▶A5判／364頁／本体5,000円(税別)

ISBN978-4-7842-1746-5

【品切】

※近代工芸運動とデザイン史

デザイン史フォーラム編・藤田治彦責任編集

「近代工芸運動」という視点を導入することにより、「近代デザイン史」という視点では抜け落ちている、各国における芸術分野での歴史・重要な動向を様々な点から解き明かす。第1部は「ヨーロッパの近代工芸運動」、第2部は「欧米の近代工芸運動とアジア」をテーマに論じられる23篇。

▶A5判／336頁／本体2,900円(税別)

ISBN978-4-7842-1438-9

京都 伝統工芸の近代

【残部僅少】

並木誠士・清水愛子・青木美保子・山田由希代編

京都における、他の地域とは異なる側面を有する「近代」にあって、美術・工芸がどのような変容をとげて現代にいたっているのか。大きく「海外との交流」「伝統と革新」「工芸と絵画」「伝統工芸の場」の視点から、様々なトピックスや人物にまつわるエピソードを取り上げ概観する。

▶A5判／300頁／本体2,500円(税別)

ISBN978-4-7842-1641-3

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年2回無料でお送りしています。電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。